

平成21年度自己評価及び学校関係者評価

兵庫県立氷上西高等学校

学校教育目標	本年度重点目標
<p><b>1 教育目標</b> 生徒一人一人の個性と能力の伸長を図り、人間としての誇りと豊かな心を育み、志を抱き活力あるたくましい生徒を育成する。</p> <p><b>2 教育方針</b></p> <p>① 学校・保護者・地域との連携を密にし、地域に根ざした「魅力ある学校づくり」や「地域に信頼される学校づくり」を推進し、「特色ある学校」の一層の発展を図る。</p> <p>② 日常生活におけるさまざまな教育活動を通じて、自主・自律の精神と豊かな感性を育み、創造力と豊かな公德心を培う。</p> <p>③ 温かさや厳しさの調和した人間的なふれあいに基づく生活指導を通して、生徒一人一人の生き方に関わる主体的な進路選択能力を培う。</p> <p>④ 人と人との絆を強め、公共心と福祉の心を育み、社会の変化に主体的に対応できる能力と生涯学習社会をたくましく生き抜く力を培う。</p> <p>⑤ 自国や諸外国の歴史・文化・伝統などについての理解を深め、国際社会と共生社会に生きる人間としての在り方や生き方を思考させる。</p>	<p><b>3 本年度重点目標</b></p> <p>① 小規模校の特性を活かした教育内容や指導方法を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図る。</p> <p>② 多様な生徒一人一人の的確な実態把握と生徒理解に努め、基本的生活習慣の確立と社会性の育成を図る。</p> <p>③ 本校の教育活動について積極的に広報活動を展開し、地域住民の理解を得るとともに、「開かれた学校づくり」を推進する。</p> <p>④ 地域の中学校、住民、関係機関等と連携しながら「県立高等学校地域連携支援事業」を積極的に展開する。</p> <p style="text-align: center;"><b>継続的目標</b></p> <p><b>4 継続的目標</b></p> <p>① 体験を重んじ郷土理解を推進する「高校生地域貢献事業」「高校生就業体験事業」「総合的な学習の時間」などの教育活動を通して、「心の教育」の充実と「共に生きる心」を育む。</p> <p>② 資格取得の機会と部活動を強化し、母校を誇りに思う生徒を育成する。</p> <p>③ 「教えるプロ」として自覚を強く持ち、一歩踏み込んだ「信頼関係」に満ちた師弟関係を構築し、「教え、論し、育てる」ことの実践力向上を図る。</p>

学校評価の実施方法についての学校関係者評価
<p>学校評価の実施方法について、本校独自の評価項目・実践目標を設定し、その成果をもとに、生徒アンケート・保護者アンケート等の結果も参考にした自己評価をおこなっており、適切に実施されている。また、自己評価及び学校関係者評価の結果をもとに次年度の取組目標につなげていくなど、効率よく学校評価を行っている。</p>

総合的な学校関係者等評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体としてボランティア活動に熱心に取り組んでおりよい傾向だと思われるので、今後も拡大、発展させてほしい。</li> <li>・地域の活性化を図るべく、地域の小中学校等をはじめ、行政及び諸施設、地域住民との連携に尽力している。次年度に向けても、この流れに乗り、さらに連携を深めてほしい。</li> <li>・学校に対する評価もやや固定化している向きもあり、イメージを一新する取組も望まれる。</li> <li>・小規模校である西高にしかできない特徴的なカリキュラム作りや教育活動を企画・実施する必要がある。</li> <li>・学校改革に向け、職員がよく取り組んでいる。今後も、根気強く取り組むことを期待する。</li> </ul>

★ 各部・学年目標 <評価基準> A・・・よくできた (4) B・・・できた (3) C・・・余りできなかった (2) D・・・できなかった (1)

領域	評価観点	評価項目	実践目標	成果	評価	学校関係者評価委員等の意見
総務部	開かれた学校づくり	広報冊子の有効活用	●「学校要覧」、「学校案内」、「入学のしおり」などの広報冊子の作成と地域等への配布	「Guide」(学校案内)を校内で作成し、多方面に配布することができた。	3.5	広報冊子やスクールニュースなどをこまめに作成・配布し、十分に広報活動を行っている。今後配布先の拡大を行うとさらによい。
		広報活動	●「スクールニュース」を幅広く配布すること、ホームページの更新を頻繁にすることにより広報活動に努める。	小さな活動も含めホームページの更新はその日のうちにUPし、ほぼ毎日続けることができた。	3.9	ホームページの更新はほぼ毎日行われており、更新ランキングの上位に入っており、学校活性化で牽引役を果たしている。
		学校行事への地域住民等の参加	●体育大会、文化祭、オープンハイスクールなどの行事を積極的に開かれたものにし、保護者や地域住民の参加を促進する。	文化祭には200名あまりの地域の方々に来校していただいた。オープンハイスクールの参加生徒が減少したのは残念だった。	3.2	体育祭や文化祭では、多くの地域の方々の参加・来校があり、学校の開放度が進んでいると考えられる。
	行事内容の充実	式典行事	●着任式、入学式、離任式、始業式、終業式、卒業式等の式典を企画、厳粛に運営し、生徒の校歌斉唱への積極的な取り組みを行う。	生徒指導部と協力し、服装等を整えてから開式するようにした。校歌斉唱については引き続き来年度の課題としたい。	2.4	卒業式は厳粛に行われていた。校歌は歌っているが声が小さいところがある。学校への愛着を定着させる工夫とともに今後も継続した指導が必要。

	安全管理	防災教育の推進	●7月と12月の2回の訓練の実施と1月17日の追悼行事を通して防災意識の高揚を図る。	1. 17追悼行事は生徒会とともに実施することができ、阪神淡路大震災の映像を用いた授業等も実施することができた。	3.8	災害は毎年発生しており、防災意識の高揚を図る取組は欠かせない。次年度は、この取組をボランティア活動にもつなげるとよい。
(総務部次年度重点取組計画案)						
1 校歌指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・式典における校歌斉唱</li> <li>・継続的指導（毎月の全校集会で指導）</li> </ul> 2 広報活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌の積極的配布</li> <li>・ホームページ作成の要員の育成</li> </ul> 3 地域貢献活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動への積極的参加</li> </ul>						
教務部	基礎・基本の定着	生徒把握	●生徒の学習状況調査による生徒の実態把握を行い、学習指導の主資料とする。	生徒学習状況調査を1学期末と3学期末に実施し、生徒の学習への意識と行動を把握し、授業改善の主資料とした。	3.0	保護者アンケートからも、家庭での学習状況を把握しているが、課題の分析を十分行い、今後の学習指導につなげてほしい。
		個に応じた指導の実践	●習熟度別授業、TT授業により、個々の能力に応じた授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。	多くの授業で習熟度別授業とTT授業を展開し、個に応じた学習指導を行った。	3.1	アンケート結果によると8割以上の保護者が習熟度別授業を評価しており、生徒の学力向上に向け、今後も継続、発展させてほしい。
	授業改善による生徒の学習意欲高揚	指導方法の工夫と改善	●ICTを活用した研修や研究会を実施する。	移動式大型ディスプレイを活用した授業の展開について研修を行った。	3.1	高校に入学してから学習習慣が身についたとの保護者からの意見を聞いた。64インチの大型ディスプレイを積極的に授業で活用し、生徒の学習意欲を喚起するなどの取組は評価できる。研修を欠かさず、よい授業作りに向けて努力してほしい。
			●年間3回の授業公開週間を実施し、保護者や地域の人々からの指摘を指導方法の改善に役立てる。	年間3回の授業公開週間で得た指摘や感想を授業改善研修会の主資料とした。	2.7	
			●授業改善のための研修会を行い、授業改善の技術・情報を共有する。	本校の授業改善における課題をKJ法を用いて明確にし、改善方法を協議した。	3.0	
魅力ある学校づくり	教育課程の編成	●平成25年実施の新教育課程を視野に入れて、本校の特色となる次年度以降の教育課程を編成する。	本校の特色化と地域連携支援事業とをリンクさせながら、新学習指導要領を視野に入れて教育課程を編成し、次年度1学年に進学類型を設置した。	3.1	本校の活性化に向けて、地域や学校の実態等に応じた特色あるカリキュラム作りの研究を進めてほしい。	
(教務部次年度重点取組計画案)						
1 基礎学力の定着 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善（分かる授業づくり）</li> <li>・小テストの実施方法の改善</li> </ul> 2 学習規律の徹底 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンスの強化、生徒理解において共通理解を図るシステムの構築</li> <li>・各授業に10分間のプライムタイムを設定</li> </ul> 3 教育課程の編成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・二系統の教育課程（中高連携における進学類型と特色選抜における特色類型）の検討</li> </ul>						
生徒指導部	生活習慣の確立	問題行動の克服	●問題行動の未然防止の指導を徹底する。校内、校外の巡回指導を実施する。	定例の全校集会で注意と警告をした。校内は毎日校外は随時巡回を行った。	2.7	昨年度と比較して、自己評価は0.5ポイント向上しているが、保護者アンケートをみると、まだ改善の余地はあると考える。生活習慣の確立は本校の克服すべき課題の一つであり工夫をこらした継続的で徹底した取組をお願いしたい。
		校則の遵守	●学校生活の基本である頭髪や服装の指導を徹底する。再登校指導を実施する。	定期的に点検を行い、違反者には注意・警告を行い再登校指導もした。	2.3	

	教育相談	指導援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育相談の充実により悩みを持つ生徒の早期発見と指導援助体制を確立する。</li> <li>●発達障害のある生徒への理解のために職員研修を行う。</li> </ul>	悩みを持つ生徒・保護者が教育相談を受け、生徒への援助ができた。外部講師による職員研修会を行った。	2.8	特に意見はなかった。
	特別活動の充実	学校の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校行事に積極的に参加し、連帯意識を高める。</li> <li>●部活動・HR活動・生徒会各種委員会の活性化を図る。</li> </ul>	生徒会を中心に体育大会や文化祭を盛り上げ、連帯意識が高まった。部活動は入学時に全員入部制を行った。各種委員会は目標や取り組みの会議を行った。	2.7	部活動は人間形成の上でも重要なものであり、一層の活性化が必要である。クラス減から運営が難しくなっていることもあるが、部の数を絞るなどの工夫をし、改善を図る必要がある。
(生徒指導部次年度重点取組計画案)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 頭髪・服装指導の徹底 <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の校門前での立ち番指導、ホームルーム・授業前の点検等の強化</li> </ul> </li> <li>2 遅刻の多い生徒の指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻回数による段階的な指導</li> </ul> </li> <li>3 いじめ・いじり・暴力のない学校生活づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・面談の適宜実施、長期休業明けにおける全校生徒対象の面談の実施</li> </ul> </li> <li>4 問題行動の未然防止と反省指導の方法の研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じ教育相談や奉仕作業を実施</li> <li>・外部講師による講演会等の実施</li> </ul> </li> <li>5 教育相談の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談を受けやすい方法の検討</li> </ul> </li> <li>6 部活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の全員入部</li> </ul> </li> </ol>						
進路指導部	進路指導體制の充実	進路情報の整備・伝達	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者への情報伝達 <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路説明会の実施</li> <li>・閲覧資料の整備</li> <li>・情報提供</li> </ul> </li> </ul>	4月に全学年に実施し、特に3年生は就職・進学別の説明会を実施し、進路環境の理解を求めた。進路閲覧コーナーに参考書や最新情報を整備した。	2.9	雇用情勢の厳しい中、就職希望者全員が就職でき、進路開拓や保護者等への情報提供、生徒への指導などで、学校側はよく努力している。また、精神的に不安になる生徒に対し、よくフォローしてもらったとの意見を聞いた。今後も地元で就職できるよう取組をお願いしたい。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>●個別相談の実施</li> </ul>	個々の生徒の実態に応じて、綿密な進路相談を実施した。	2.9	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>●定着指導と求人開拓 <ul style="list-style-type: none"> <li>・既卒者の事業所を訪問</li> <li>・継続的な求人依頼</li> <li>・新たな求人先の開拓</li> </ul> </li> </ul>	求人確保に向けて精力的に取り組んだ。	3.3	
		学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●進路実現に向けた学習習慣の確立と実力養成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後補習の実施</li> <li>・長期休業中の進学補習の実施</li> <li>・模擬試験の年間計画作成と実施</li> </ul> </li> </ul>	進学補習を計画通り実施した。模擬試験と検定を年度当初に一括して計画、申請し、実施した。	2.8	特に意見はなかった。
	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	就業体験事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●卒業生徒の進路座談会</li> <li>●2年生インターンシップの実施</li> <li>●外部講師による進路講演会</li> </ul>	卒業生に就業現場の談話や地域の有識者から講演を実施した。2年生全員がインターンシップに取り組み、熱心に活動した。特別教養講座として講師を招き、進路講演会を実施した。	3.6	2年生全員が参加するインターンシップは本校の特色的なシステムであり、企業の人事担当者及び職業安定所職員等との講演会とあいまって、自己の進路実現に向け、成果が出ているのではないかと。

(進路指導部次年度重点取組計画案)						
1 進学補習の充実 ・早朝補習、土曜日補習の検討 2 3学年における進学・就職指導の徹底 ・3学年との連携の強化 3 2年時より就職試験対策講座を導入 ・就職試験問題集による基礎学力の定着 4 丹波市内における求人開拓の更なる推進 5 「進路だより」の発行						
保健環境部	保健衛生	安全教育	●職員を対象にしたAEDを使用した心肺蘇生法講習会を実施し、危機管理に対応できる体制を確立する。 ●生徒を対象にした安全教育を推進する。	全職員にAEDを使用した心肺蘇生法講習会を消防本部の協力で実施し機器操作の習熟を図った。生徒を対象に、防災教育の中で安全教育を行った。	3.2	特に意見はなかった。
		健康教育	●保健だよりを定期的、かつ随時発行し、生徒が主体的に健康を管理する意識を高める。 ●健康管理のため、諸検診を実施する。 ●家庭との連携を密にして、必要な生徒に治療を促す。	「ほけんだより」を保健室よりほぼ毎月発行し、健康管理に対する啓発に努めた。予定通り諸検診を実施でき、保護者への連絡をその都度行い、治療の必要な生徒に勧告した	3.4	健康管理の啓発を図る「ほけんだより」が定期的に発行されておりよいと考える。歯科等未治療の生徒が多いと聞くが、一層の啓発が必要ではないか。
	環境整備	環境美化	●ゴミの分別意識の向上を図る。	ゴミの分別意識がとても低いため、意識を高める必要がある。	2.1	昨年度と比較して0.6ポイント向上した。総合学習でのクリーンセンター見学の影響も考えられる。今後も意識向上を図ってほしい。
(保健環境部次年度重点取組計画案)						
1 ゴミ分別の意識向上とゴミ分別の徹底 ・ゴミの分別に向けた啓発的な取組の実施 ・全校集会でのゴミ分別啓発講話の実施 2 生徒の清掃活動の徹底と公共心の育成 ・全職員が責任を持ち、清掃を生徒指導の一つとして取り組む。						
人権教育委員会	人権意識の高揚	職員研修	●職員研修会を実施し、職員の人権意識の高揚を図る。	職員研修会は、講師を検討したもの本年度実施できず。	1.7	研修会は、講師ではなくてもビデオでもよいのでは。普段忘れていくことが多いので、差別に対する気づきが大切だ。そのために何らかの取組が必要だと思う。
		生徒の意識の高揚	●生徒を対象とした人権教育の啓発を図る。	視聴覚教材を工夫し活用した。体験活動を通じ高齢者や障害のある人への理解に取り組んだ。	2.7	
	生徒の実態把握に基づく確かな指導	実態把握	●感想文等により生徒の意識を把握する。 ●個々の差別実態を解消させる態度を養う。	人権作文やいじめアンケートにより生徒の実態把握に努めた。各学年におけるいじめの実態把握に努めた。	2.5	実態把握は定期的実施して、いじめ等の未然防止に取り組んでほしい。
	他との連携による人権教育	進路指導に関する内容	●生徒の進路問題（限定13項目等）についての指導	3年生を中心した、就職模擬面接の重点課題として取り組んだ。	2.8	特に意見はなかった。
		諸機関との連携	●外部の関係機関と学校との連携を図る。	校外の研究大会、部会、研修会等に努めて参加した。	3.3	校外での研究会等での成果を校内に還元させることが大切だ。
(人権教育委員会次年度重点取組計画案)						
1 職員対象の研修会の実施（1学期中間考査中） ・デートDV防止教育にかかる研修会 2 人権意識調査アンケートの実施 3 人権教育指導資料の統括と共有化の促進 4 いじめ、暴力行為に対する啓発活動の実施 5 校外研修内容の校内へのフィードバック						